

Spiritualism News Letter

2000
新年号
(第8号)
1月1日発行

スピリチュアリズム・ニューズレター

発行/スピリチュアリズム・サークル 心の道場 発行人/小池里予 〒441-3147愛知県豊橋市大岩町字火打坂18 TEL 0532-41-0537 FAX 0532-41-8257
ホームページアドレス <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~spk/>

霊界から見たスピリチュアリズムの歴史

地球人類の霊的進化の概観

シルバーバーチとインペレーターとの霊界通信では、驚くべき霊界の秘密が明らかにされています。スピリチュアリズムは、この神秘中の神秘とも言うべき“霊的な事実”から出発します。それは次のような事実です。

人類が地上に誕生する以前に、地球を取り巻く霊界にはすでに多くの天使達がありました。そして、その中のある者は霊的成長のプロセス（肉体を持たない形での成長で、私達人間とは異なる霊的成長方法）をへて、超高級霊とも言うべきレベルに達していました。そうした天使達が、神の代理者として地球の経緯にあたっていたのです。人類が地上に誕生するに際しては、それらの天使達が主役を果たしました。他の天体からやってきた宇宙人の働きかけによって、地上人類が誕生したわけではありません。イエスはそうした地球の経緯にあたっていた高級天使霊の一人だったのです。イエスは高級天使として地球に対する責任を持った立場に立っていました。現在、地上でスピリチュアリズムやニューエイジの名前で展開している“霊的刷新”の流れは、大本に溯れば、この高級天使イエスに至ります。

地球上に人類が誕生し、低い次元から徐々に霊性進化・霊的向上の道を歩み出します。人類の霊性進化における歩みには、常に霊界からの天使達の働きかけがありました。地球に係わる天使達の導きの中で、地上人類は現在に至るまで“霊性進化”の道を

たどってきたのです。（*天使についての詳しい説明は、今後のニューズレターで取り上げる予定です。）

地球上に人類が誕生してから、今日西暦2000年に至るまでの気の遠くなるような長い道のりは、「人類全体としての霊性進化の歩み」の一言で言い尽くされます。霊性進化という核心的動向に付随して地球上に宗教・文明が引き起こされました。さらに、それらを取り巻くようにして政治・経済活動が営まれてきました。スピリチュアリズムの広義は「霊性進化の道程」ということであり、その意味からすれば、人類は地上に誕生して以来、現代に至るまで、まさにスピリチュアリズムの道を歩んできたと言えます。

こうした霊界の視点から、スピリチュアリズムを中心とする人類の歴史を見ていくことにしましょう。

スピリチュアリズムと言えば、一般的には1848年の“フォックス家事件”をその始まりとしています。しかし、それはあくまでも地上における現代スピリチュアリズムの出発点であるということです。地上人類全体の霊性進化の道、広い意味でのスピリチュアリズムの進展という観点から見れば、スピリチュアリズムは人類が登場して以来、すでに始まっていたのです。そして人類全体にわたるそのスピリチュアリズムの流れ（歴史）は、「人類誕生～イエス登場以前」「イエス後～1848年」、そして「1848年以後～現在」の三つの時代に大きく分

けることができます。

天使による霊界から地上への働きかけは、常にさまざまな地域、さまざまな民族に向けて行われてきました。霊界からの働きかけは、中東のユダヤという一地域・一民族に限られていたわけではありません。インド、中国、アジア、アメリカ大陸など、いずれの地域においても働きかけはなされてきました。しかし地球全体の規模で見ると、ユダヤ民族に対して最も集中的な働きかけがあったということなのです。そして、その中心的な流れを“核”として、霊界の導きが地上に展開していきました。

その流れは先に述べたように、「イエス以前」「イエス後」「1848年～現代スピリチュアリズム」という三つの時代に区分することができます。地上人類の進化を全体的視点から見ると、イエスの誕生と1848年が、最も記念すべき節目の年となります。

次に、それらの一つ一つの時代について見ていくことにしましょう。

地上人類の誕生～イエス登場

イエス登場以前の霊界からの働きかけがユダヤ民族に集中的になされてきたことは、モーゼスの『靈訓』の中でインペレーター霊が明確にしています。それによれば、現在のパレスチナ西部の古代都市サレムの王であったメルキゼデクは、偉大な霊の一つとして地上に生まれ、真理の光として歩み出します。彼は地上を去って後は、後継者たるモーゼの指導霊となります。モーゼを通じて強力な霊団がユダヤ民族に働きかけ、それが世界各地へと広がっていきました。そのモーゼは死後、エリヤの指導霊となり後世に影響を及ぼすこととなります。そしてこのエリヤは死後、マラキ（インペレーター霊の地上時代の名前）の指導霊となります。またさらに時代がくだって、イエスの地上時代に至ると、彼らはイエスの指導霊として働くこととなります。こうした、メルキゼデク→モーゼ→エリヤ→マラキ→イエスという巨大な霊的流れによって、人類の霊性進化の道筋が準備されてきたのです。

* 霊界による人類の霊的進化に向けての働きかけは、このようにユダヤ民族を中心としてなされてきました。このニューズレターでたびたび引用している三千年前の古代霊シルバーバーチが、果たしてこのユダヤ民族の霊の流れの中にあっただろうかということですが、シルバーバーチ自身が、地上時代は多神教を信じていたと声明しているところから推測すれば、ユダヤ人ではなかったということになります。

今あげた旧約聖書に出てくる人物達は、その後、霊界において進化し、また再生のプロセスをへて、その魂を向上させていきます。そして1848年以後、地上で展開しているスピリチュアリズムにおける指導的立場に立つこととなります。例えばモーゼスの『靈訓』の通信霊インペレーター霊は、地上時代はマラキでした。そして、そのマラキのさらに上位の指導霊としてエリヤ、モーゼが控えていたのです。そのいずれもが、現在のスピリチュアリズムにおける霊界での指導的立場にあり、年2回のイエスを中心とする高級霊全員が集合しての首脳会談・審議会に参加していることが窺われます。

ヘブライ（ユダヤ）旧約時代に登場した、これらモーゼ、エリヤ、マラキなどは、霊的摂理が地上にもたらされるための中心的立場を担ったのですが、霊界においては彼らはみな、後に地上に生まれたイエスの指揮下で働くこととなります。そして現在もなお、これらの全ての霊達はイエスを最高の霊として仰ぎ、指導を受けています。地上には後に生まれたイエスが、先に地上に生まれたモーゼ、エリヤなどに対して指導的立場に立つことになるのは、地上へ出生する以前の、イエスの霊界での地位にその理由があります。



すなわち旧約時代、イエスは霊界において天使として、地上のモーゼ、エリヤを指導する立場にありました。モーゼやエリヤなどの地上人は、霊的に未熟なレベルから徐々に進化していくプロセスを経なければなりません。それに対して、イエスは天使としてすでに高次元にまで霊的進化を果たし、いかなる地上人よりも高い霊的な立場に立っていたのです。当時の地上人類とは、霊的な高さにおいて別格だったのです。その天使イエスが肉体をまとして地上に降臨したことは、地上人類史における最大の出来事でした。地上に生まれ、高級天使霊から地上の人間になったイエスは、その死後、直ちに本来の霊界での立場に戻ります。しかしその際、以前とは異なり、天使としての立場から、(いったん地上人類と同じ肉体を持って地上人として歩んだがゆえに) 最高の霊性を持った地上の人間としての立場に立つようになります。こうして霊界における地上人類救済のための最高の指導霊になったのです。

以上のような霊界での背景があったため、地上に先に誕生した、モーゼ、エリヤ、マラキ、さらにはシルバークロウなどが、イエスを最高の指導者として仰ぐことになったのです。

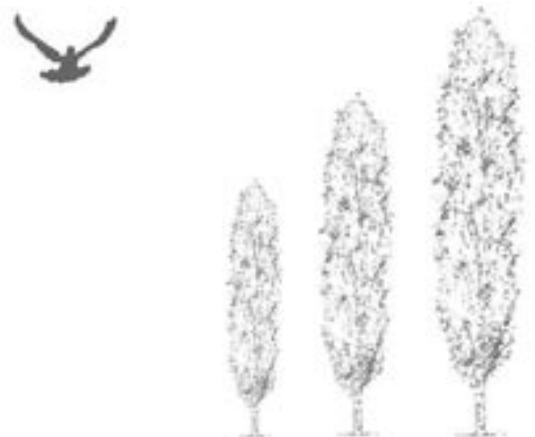
イエス以後～1848年

イエスという高級天使が肉体をまとして地上に現れたため、地上にはイエスという“最高の霊性”を持った人間が登場することになりました。しかし霊的には最高であると言っても、いったん肉体を持てば、私達と等しい肉体の誘惑にさらされるようになります。肉体の持つ弱さを絶えず克服しなければなりません。この意味でイエスは、私達と同じ人間としての弱さ・苦しみ・悩みを持つことになったと言えます。高級天使イエスの受肉(地上への誕生)は、地球人類史上最大の出来事でした。このイエスの地上への誕生によって、人類に高次元の霊的真理がもたらされました。地上人類は、イエスによって、本当の愛・利他愛こそ摂理そのものであることを知りました。イエスによってもたらされた教えによって、霊的成長の方法・霊性進化の道が明確にされました。「利他愛」という人間にとっての最高

の規範・生き方の指針が示されたのです。

*イエスの肉体の特殊性について、高級霊はその秘密を述べています。イエスの肉体は、一般人の肉体と比べ霊的浄化が進んでいたため、霊界との交わりの障害にならなかったと明らかにしています。ここには人類にとっての最も深い奥義が示されています。イエスは絶えず霊界からの強力な導き・守護のもとにあり、その靈魂は常に霊的エネルギーで満たされていました。肉体を持ちつつも、それを常に完璧なまでに霊的にコントロールする状態(霊主肉従の状態)が保たれていました。これこそが、人間イエスと私達一般の地上人の違いなのです。イエスは地上に人類が登場して以来、最高に清らかなレベルの人間の在り方を地上において実現し、具体的にそれを示したのです。

キリスト教の神学では、イエスの肉体の特殊性について、原罪がない唯一の神の子として理解しようとしています。それは間違っています。このニュースレターでも述べましたが、原罪とかサタンといったものは、キリスト教が勝手に作り出した人間の想像物であって、霊界の事実ではありません。キリスト教の神学で言うように、原罪がないがゆえに、イエスの肉体が清らかだったわけではないのです。霊的エネルギーの充実度が私達と比べて桁外れに大きく、それによって肉体が浄化され、コントロールされていたためなのです。そしてそれが可能となったのは、高級天使が肉体をまとして地上人類として生まれるという、考えられないような特殊な事情があったからなのです。



さてイエスの死後、人々はその崇高な教えを純粋なまま後世に遺すことができませんでした。人間のエゴと無知によってイエスの真意は歪められてしまいました。そして人間の想像物が、イエスの教えとして定着するようになってしまいました。キリスト教の教義は、イエスの教えとは似ても似つかないものとなりました。イエスの教えでないものがイエスの教えとして広められ、それが人類を無知の牢獄につながり止め、“思想的地獄・霊的地獄”に落とし入れられるという極めて大きな罪作りの張本人になってしまいました。そして地上には長い霊的な暗黒時代が続くこととなります。霊界からの救済的働きかけや霊的な業は、すべてサタンの仕業として見なされ、非道な弾圧の対象となってきました。

そうした人類の愚行を目の前にしたイエスの心境について、シルバーバーチは、「私はイエスが何度も涙するのを見てきました」と述べております。シルバーバーチは、さらに次のようにも言っています。「イエスを通じて地上へ働きかけた霊は、今なお二千年前に始まった事業を果たさんとして引き続き働き続けております。その間、イエスの霊は数え切れないほど何度も磔にされ、今なお毎日のように磔にされております。」「イエスは地上での目的は果たしました。が、残りの使命はまだ果たしておりません。それが今まさに、イエスの指揮のもとに成就されつつあるところです。……略……その後イエスも向上進化し、地上時代よりはるかに大きな意識となって顕現しております。」

イエスは死後、霊界において人類救済の指導的立場にあり、現在に至るまで地上人類救済のためのスピリチュアリズムの総指揮を執ってきたのです。



1848年に向けての準備段階

地上が霊的暗黒時代にある一方、霊界ではイエスを中心として地上の霊的浄化のための道が着々と準備されていきます。そして1848年までに、地上に向けての大規模な組織的働きかけの準備が整います。1848年に遡る数世紀前より、霊界ではイエスを中心とした霊的軍団ともいべき態勢がつくられてきました——「幾世紀も前から、真理普及のための強大な軍団が組織されているのです。」（愛の力・52）

そして、そうした準備の一方で、スウェーデンボルグ等を通じての霊的教化の初歩的働きかけが始められます。スウェーデンボルグの霊界探訪によって、霊界と地上の交流の可能性が霊界と地上の両サイドに知られるようになります。このスウェーデンボルグの指導霊は（聖書の黙示録を書いた）ヨハネでした。（*誰でも睡眠中には霊界を訪れていますが、目が覚めると、その記憶の大半は失われています。しかしスウェーデンボルグは、覚醒後も、霊界訪問中の記憶や体験のほとんどを思い出すことができました。それによって、地上人に初めて正確な霊界の様子が知らされるようになりました。）

もちろんスウェーデンボルグの記述には、先駆者としての未熟な点や間違い・欠点もありますが、地上人類は彼によって初めて、詳細で具体的な霊界の知識を得ることになりました。

そのスウェーデンボルグは死後、アメリカ人霊能者アンドリュー・ジャクソン・デイヴィスの指導霊となって、地上に働きかけることとなります。A・J・デイヴィスはアメリカ有数の霊能者で、その思想は「調和哲学」という名によって知られています。このアメリカ史上最高の霊能者は、やがてスピリチュアリズムが地上に到来することを予言しました。そしてまさに、その予言の1年後、“フォックス家事件”が起こることになります。

*フォックス家事件の30年ほど前から、ヨーロッパではメスメリズム（催眠術）が流行し、催眠下におけるさまざまな心霊現象が知られるようになっていました。もちろん、これらの全ての動きは霊界の働きかけによって引き起こされたもので、スピリチュアリズムの到来に対する準備だったのです。

*この時期日本では、江戸期の国学者平田篤胤^{あつたね}によって霊界研究が進められています。彼の霊界研究は、さまざまな現実の心霊現象を観察して事実を明らかにしようとする方法によって進められています。これは彼の霊界研究が実証性に富んだものであること、近代心霊科学研究や現代のアメリカの臨死研究にも通じるものであることを示しています。彼の明らかにした死生観は、その後の日本の思想に大きな影響を与えるようになり、やがて大本の出口王仁三郎へと続いていくこととなります。篤胤は1845年、フォックス家事件の3年前に死んでいます。

篤胤は日本の心霊研究の創始者と言えるばかりでなく、彼の死生観である“^{ゆうめいろん}幽冥論”は日本思想史の上からも画期的な思想であると言えます。彼の死生観は、彼の著書—『^{たまのみはしら}霊能真柱』の中で述べられています。この中で示されている死生観は、まさにスピリチュアリズムの死生観そのものと言えます。

1848年以後——地上における本格的スピリチュアリズムの歩み

現代のスピリチュアリズムは、1848年のフォックス家事件に始まることはよく知られています。さて、そのスピリチュアリズムの目的は何かということですが、それについては、現代のスピリチュアリストと言われる人々の中においても、正しく理解されていないのが実情です。スピリチュアリズムに関心を持っているにもかかわらず、肝心なスピリチュアリズムの目的について勘違いをしている人達が多いのです。

スピリチュアリズムの地上展開の目的は、人類に霊的真理をもたらし、それによって人々を霊的に新生させ、霊性進化の道を歩ませるということです。それ以外にはスピリチュアリズムの目的はありません。霊界が総力をあげて地上に働きかけるのは、地

上人類に霊的真理を教え、正しい霊的人生を歩ませるためであり、その一点に向けて霊界の働きかけがなされてきたのです。スピリチュアリズムの目的は、地上人を霊的に向上させること以外にはありません。

スピリチュアリズムというと、とにかく心霊現象や超常現象と関連づけられますが、それらはどこまでも、スピリチュアリズムの脇役的な要素・補助的部分に過ぎません。スピリチュアリズムの霊的真理普及のための、単なる手段に過ぎません。心霊治療もそれと同様、霊的真理に至るための手段です。あるいは幼い者に対する玩具^{おもちゃ}のようなものなのです。霊界は、霊的教訓を地上にもたらす前段階として、さまざまな心霊現象を通じて、死後の世界と靈魂の存在を示そうとしました。スピリチュアリズムにおける最も肝心なものは霊界通信によってもたらされる霊的真理と霊的な教訓であって、霊的な現象ではありません。

1848年以降、地上に展開した現代スピリチュアリズムにおいては当然、「霊的真理・霊的教訓」を地上にもたらすことが、その最終目的となっています。

スピリチュアリズムでは、「心霊現象」と「霊界通信による教訓」が二つの柱となって進行していきますが、霊界サイドにおける意図は、どこまでも「霊的教訓」にありました。そして霊界はまず現象を通じて、教訓を受け入れるための準備をしてきました。そのためスピリチュアリズムの初期の段階では華々しい現象が次々と演出され、人々の関心を霊的世界へ向けさせてきました。次に、そうした心霊現象をより効果的なもの、より多くの人々の関心を引き付けるものへとグレードアップさせていきます。すなわち単なる物理的な心霊現象から、心霊治療（スピリチュアル・ヒーリング）へと、心霊現象の内容が変化することになります。そして、そうした霊的準備に並行して、高級霊界からの通信が送られてくるようになります。

次に1848年のフォックス家事件以降の、現代スピリチュアリズムの歩みを見ていくことにしましょう。

①物理的心霊現象を通じての準備段階

霊的真理と霊的教訓を地上にもたらすに先立って、地上人に、死後の世界のあること、死後も人間は霊魂として生きること、死は生命の終わりではないこと、そして死後も地上の人々と交流ができるということを知らせる必要があります。こうした知識は「霊魂実在論」と言われ、スピリチュアリズムにおける最も基本となるものです。そうした常識的な霊的知識がないところでは、それ以上の知識を与えてもすべて無駄になってしまいます。より高度な知識が受け入れられるためには、それにふさわしい霊的準備が必要とされます。そのために霊界は目を見張るような物理現象を引き起こしました。19世紀の終わりから第一次世界大戦にかけて、ヨーロッパでは優秀な霊媒者・霊能者が次々と現れました。

(*D・D・ホーム、フローレンス・クック、ユーサビア、パイパー夫人などがその代表で、よく名前が知られています。この時代における心霊現象研究を深く知りたい方は、すでに多くの出版物があり詳しく説明されていますので、それらを参考にしてください。)

優れた霊媒達によって、現在ではほとんど不可能と思われるような驚異的な心霊現象が演出されました。そして、それを当時の一流の科学者に調査研究させるという状況が作り出されていきます。言うまでもなくこれらの一連の動きは、すべて霊界によって計画的に進められたものなのです。

この近代心霊科学研究においては、懐疑的な、あるいは否定的な立場を取る科学者の目の前に、生々しい否定し難い心霊現象の事実を突き付けることによって、彼らに霊的世界があること、霊魂が実在することを認めさせてきました。クルックス、ホジソン、リシェー、ロッジ、マイヤースといった科学者は、そうした代表的人物と言えます。これは懐疑的な人間、唯物論的な人間を、“霊的現象”という事実によってねじ伏せる、すなわち霊が物に勝ることを示すという意味を持っています。

②より進んだ心霊現象（心霊治療）への移行

——心霊現象の質的变化ならびに心霊現象の大衆化

第二次世界大戦を機に、物理的心霊現象の霊媒者は急に姿を消すようになります。霊界側の方針が変わったためです。すでに当時の一流の科学者を巻き込んだ「霊魂実在論」の証明は成功し、霊現象を素直に受け止められる人間にとって、霊魂の存在は明らかなものとなりました。しかし、そうは言っても相変わらず、自分の目の前で現象を見ない限り決してそれを信じようとしません。この意味で、一部の科学者による心霊現象の研究には大きな限界があります。一方、二十世紀に入り、物理学の進歩により従来の物質観が一変し、（従来のニュートン力学に基づく）物質の定義も変化するようになりました。

そして、この状況に合わせて、新しいタイプの心霊現象が演出されるようになってきました。それが心霊治療（スピリチュアル・ヒーリング）です。霊界によって演出される心霊現象が、物理的な現象から心霊治療へという方向に変化することになります。心霊治療は身体の病気を治すという点では物質的ですが、それを引き起こすのは霊の力です。これによって多くの人々が直接霊の力を体験し、霊界の霊達の存在を知ることができるようになりました。こうした心霊治療の普及によって、霊現象の“大衆化・拡大化”が急速に進められるようになりました。そして心霊治療の普及は現代においても世界各地に広がりを見せています。

しかし霊的な後進地域においては、物理的心霊現象は今日においても必要とされます。見た目には派手な心霊現象を示さない限り、人々の心を霊的な世界へ向けることはできないからです。その意味で霊的現象の中心が心霊治療に移ったと言っても、地上世界には今しばらく、古いタイプの物理的心霊現象も必要とされます。

いずれにしても、霊界サイドから引き起こす心霊現象の中心は高級霊界の計画によって、物理現象から心霊治療に移ったことは事実です。現在行われている心霊治療の目的は言うまでもなく、それを通じて「霊的真理」への道を開くためのものです。

一昔前に物理現象が科学者の関心を呼んだ時期がありました。もちろん、それも計画の一環でした……しかしその後、科学の世界にも大きな変化が生じております……そうすると、地上界へのこちら側からのアプローチの仕方も必然的に変わってきます。心霊治療が盛んになってきたのは、その一つの表れです。

〈新たなる啓示・40、41〉

③心霊現象から真理と教訓のレベルへ——霊界通信による霊的真理・霊的教訓の段階へ

心霊現象によって「靈魂説」が受け入れられるようになったなら（死後の世界や靈魂のあることが分かったなら）、心霊現象の目的はそれで果たされたこととなります。もはやそれ以上、現象を追い求める必要はなくなります。霊界・靈魂の存在を知りながら、いつまでも霊的現象にこだわることは、単なる好奇心・エゴ以外の何物でもありません。霊界の導きに対する裏切り行為にもなりかねません。霊的現象だけに関心がとどまる限り、最も肝心な霊的成長に心を向けることはできません。死後の世界があることを確信したなら、心霊現象はもうどちらでもよいものであり、一刻も早く次の段階、すなわち霊的真理の実践・内省的信仰の努力という方向へ進んでいかなければなりません。

霊界の存在を信じられる人は当然のことながら、もはや交霊会に参加する必要もありません。交霊会は、いまだ死後の世界のあることを知らない人のためのものです。高級霊が今日まで苦勞を重ねて働きかけてきた目的は、まず霊界の存在を知らせた上で、霊的真理に基づく信仰実践・霊的歩み・霊的内省的努力といったレベルにまで地上人類を引き上げることだったのです。

しかし残念なことに、現実にはあまりにも多くの人々がいつまでも好奇心のレベルに留まり、相変わらず死者の霊との交わりを求め続け、あるいは現象に関心を向け続けています。

ここでインペレーターの警告に、もう一度耳を傾けてみることにしましょう。

心霊現象は単に人間の目を見張らせ、面白がらせるためのものではありません。肝心の目的は霊的教訓にあるのです。

〈霊訓下・161〉

物理的現象のみの興味、魂の成長にほとんど役に立たないうわべの興味にのみ終始してもらっては困ります……現象そのものを目標としているではありません。目標は一段高い次元にあるのです。

〈霊訓下・162〉

現象はどういじくってみたところで、それ以上の価値は出て来ません……あくまでも現象を基礎として、そこより一步踏み出さなければなりません。

〈霊訓下・163〉

このスピリチュアリズムにも次第に致命的な悪弊が生じつつあります。すなわち現象のみをいじくりまわすことから生じる、言わば心霊的唯物主義です……もしもそれのみにて満足するのであれば、むしろ初めから一切の関わりを持たなかった方がよかったかも知れません。

〈続霊訓・112〉



地球に人類が登場して以来、霊界から一貫して続けられてきた霊性進化に向けての働きかけは、今現在のスピリチュアリズムによる「霊的真理・霊的教訓」において最終段階に至っています。1848年に遡る何世紀も前から、霊界で起こされてきた霊的軍団の組織化の目的は、今われわれが手にした霊訓によって決着をみています。高級霊がわざわざ低級霊を用い、派手な現象をつくりだしてきたその目的は、現在、私達が霊訓を手にしていることにおいて最終的なゴールに至っているのです。イエスが悠久の歴史をかけて働き続けてきたのは、まさしくこうした「霊訓」を地上にもたらすためだったのです。

幸いなことに、現在地上に生きる私達は、すでに「霊的真理」——『シルバーバーチの霊訓』、モーゼスの『霊訓』、アラン・カルデックの『霊の書』の三大霊訓に代表される高級霊界通信を手にしています。これらはスピリチュアリズムにおいてもたらされた人類にとっての最高の宝なのです。こうした高級霊訓によって地上には、すべての問題解決の方法が示されました。地上天国をつくりだすための道が示されました。霊界あげての働きかけは見事に成功しました。あとは地上にいる私達がそれを実践に移して、自らの魂を引き上げ、自分で自分を救うこと、並びにまだ真理を知らない他の人々にそれを伝えていくことだけが残されているのです。この点を、よくよく理解しておかなければなりません。皆さんは、そうした最高次元の「霊的真理」を手にしながら、いまだに現象だけにとらわれているようなことはないでしょうか。

④キリストの再臨、イエスの再臨について

キリスト教徒にとって、イエスの再臨は極めて重要な意味を持っています。キリスト教徒の信仰は、まさにイエスの再臨を信じることによって維持されてきたと言えます。キリスト教徒にとって、イエスの再臨は最終的な希望なのです。しかし、その再臨についてはさまざまな考え方・とらえ方があります。ある者は、聖書の文字通りイエスが空中に聖徒を従えてやって来ると考えています。またある者は、イエスは人間として生まれ、その際、手足にクギの跡

を持って誕生すると言います。またあるキリスト教は、再臨するのはかつてのイエスではなく、同じ使命を持った別の人物が再臨のメシアとして地上に現れると考えています。そして、それぞれの見解の正当性を神学的論拠に基づき主張しています。

しかしスピリチュアリズムの観点から結論を言いますと、こうした再臨についての従来の諸説はすべて間違っています。「再臨」の本当の意味は、霊界通信によって明らかにされています。イエスを中心とする高級霊団がスピリチュアリズムを起こしてきたことは何度も述べましたが、イエスの再臨の意味するものは、まさにこのことだったのです。

現在、イエスを中心とする高級霊団は、スピリチュアリズムという形を通して地上人類を救うために働きかけ、影響力を及ぼしていますが、そのことが、すなわち「イエスの再臨の実態」なのです。かつてのイエスと同一の人物が再び地上に再生するのではなく、イエスの“霊的影響力”が地上に到来するということなのです。イエス本人が再び地上に人間の姿をとって現れることはありませんし、イエスと同じ使命を持った人物（メシア）が、第二のイエスとして地上に誕生するということもありません。スピリチュアリズムによってもたらされた「霊的真理」こそが、まさにキリストの再臨の実態そのものなのです。イエスの再臨とは、人ではなく“霊的影響力・霊的真理”のことを指しています。

ゆえにスピリチュアリストこそ、再臨したイエスに真っ先に会っている当事者ということになります。キリスト教徒にとって、こうした見解はとて受入れ難いことでしょうし、彼らの多くは、そうしたデタラメを言うスピリチュアリズムは巧妙なサタンの仕業に他ならないと言います。しかし今述べたことは紛れもない事実であり、霊界に行った際には誰もが認めることになるのです。彼らも死ねば、霊界の事実を通して、そのことを認めざるを得なくなります。



キリストの再来とは靈的再来のことです。人間が夢想するような、肉体に宿っての再生ではありません。使徒を通じて聞く耳をもつ者に語りかけるという意味での再来なのです。

〈靈訓下・28〉

今まさに主イエスが（新しい啓示をたずさえて）地上へ帰って来つつあるのです。それを、中継の靈団を通じて行っておられます。必要とあれば、みずから影響力を人間に行使されることもあるかも知れません。が、肉体に宿って再生されることは絶対にありません。

〈統靈訓・182〉

私達は、スピリチュアリズムがイエスを頂点とする高級靈によって進められていることを常に意識していなければなりません。しかし、決して“イエス信仰”に陥ってはなりません。

シルバーバーチの次の言葉を、深く心にとめておきましょう。

わたしがこうしてイエスについて語る時、わたしはいつも“イエス崇拜”を煽ることにならなければよいが、という懸念があります。

〈愛の力・247〉

イエスを信仰の対象とする必要はないのです。それよりも、イエスの生き方を自分の生き方の手本として、さらにそれ以上のことをするように努力することです。

〈愛の力・242〉



シルバーバーチより

私たち靈界の者から見ればイエスは、地上人類の指導者の永い靈的系譜の最後を飾る人物 — それまでのどの靈覚者にもまして大きな靈の威力を顕現させた人物です。だからと言って、私どもはイエスを崇拜の対象とするつもりはありません。イエスが地上に遺した功績を誇りに思うだけです。イエスはその後も、私たちの世界に存在し続けております。イエス直々の激励にあずかることもあります。ナザレのイエスが手がけた仕事の延長ともいべきこの（スピリチュアリズムの名のものと）大事業の総指揮に当たっておられるのが、他ならぬイエスであることも知っております……。

イエス・キリストを真実の視点で捉えなくてははいけません。すなわちイエスも一人間であり、靈の道具であり、神の僕であったということです。あなた方もイエスの為せる業のすべてを、あるいはそれ以上のことを、為そうと思えば為せるのです。そうすることによって、真理の光と悟りの道へ人類を導いてきた幾多の靈格者と同じ靈力を発揮することになるのです。

〈シルバーバーチ3・104〉

本物の霊能者と二セ霊能者の見分け方

スピリチュアリズムの使命の一つに、正しい霊能者と二セ（偽）霊能者を見分けるということがあります。霊能者は本来、“霊の通路”になるという大切な役目を背負っています。その役目を通じて、いまだ霊界や霊の存在を知らない人々に、霊的な事実を伝えることができます。その意味で霊能者には、「神の道具」としての大きな責任が与えられています。ところが実際には、多くの霊能者が神の道具としての使命を果たすどころか、逆に神の道を妨げ、人々を正しい道から遠ざけるといった忌々しき問題を引き起こしています。

霊能は、自分自身の利益のために与えられた特権ではありません。自分の利益のために霊能を用いることは許されません。霊的な能力は、一般の人々には特別に素晴らしい能力のように思われていますが、霊能それ自体に価値があるわけではありません。それをどのように用いるかによって、霊能を持ったことの価値が決まるのです。霊能力の使い方によって「本物の霊能者」か「二セ霊能者」か、「優れた霊の指導を受けられる霊能者」か「低級霊に支配される霊能者」かが決定されるのです。世俗的で物欲的な霊能者には、必ず低級霊が働きかけています。世間一般に霊能者として名前が知られている人々（特にテレビや本の出版などでその名前が知られるようになった人々）の大半は、低級霊に翻弄されているのが実情です。

スピリチュアリズムに導かれ霊的真理を知ることのできた私達は、二セの霊能者を見抜いて、世間の人々が彼らに近づかないように、また騙されないように警告を発する責任を持っています。そのためには、二セ霊能者を的確に見とおす判断力を身につけなければなりません。霊能者の善し悪しの判別は、「語る言葉の内容」「態度」「実生活」の三つの点からなされます。

次にこの三つの点から、具体的に“二セ霊能者”の見分け方を学ぶことにしましょう。

①語る言葉の内容から

- ・「罰が当たっている」などと言う。
- ・「霊がとり憑いている。お払いをしなければいけない」などと言う。
- ・「水子が祟っている。水子供養をしなければいけない」などと言う。
- ・「先祖が地獄に堕ちて苦しんでいるために、子孫にいろいろな悪いことが起こっている」などと言う。
- ・「問題の解決には、特別な先祖供養が必要である」などと言う。
- ・「霊の障り（霊障）がある」などと言う。
- ・「方角が悪い」「星回りが悪い」など、占いじみたことを言う。
- ・「あなたには何か悪いこと（不吉なこと）が起こるような運命がある」とか、「このままだと、きっと家族の誰かが病気になる」など、不安を与えるようなことを言う。
- ・将来について、予知じみたことを言う。
- ・「あなたの背後霊は誰々である」などと背後霊の指摘をする。
- ・「あなたの前世は誰々で、どんなことをしてきた」などと前世の指摘をする。
- ・「私があなたの悪い因縁を切ってあげましょう。あなたに代わって私が祈って解決してあげましょう。私が霊障を取り除いてあげましょう」などと言う。
- ・あまりにも霊的真理からずれたことを言う。
(ex.あなたは何十回も生まれ変わっています／あなたの前世は動物でした／あなたは立派な守護霊を付けなくてははいけません)
- ・世俗的、日常的なことを質問すると、すぐに答える。
- ・財運、運勢、未来の出来事、恋愛・結婚運などの質問に対して、不安を与えたり、逆に有頂天にさせて喜ばせるようなことを安易に言う。

以上、リストアップしたようなことを平気で口にするような霊能者は、低級霊に憑かれていると思って間違いありません。霊能者が語る内容の間違いやいい加減さは、皆さんが「霊的真理」をしっかりと知っていれば容易に判別できるはずです。近い未来の予知とか、死んだ家族のこと、身内のことを言い当てるのは、低級霊の得意とするところです。霊能者がそうしたことを正確に言い当てたからといって、驚いたり動揺してはなりません。その程度のことは、低級霊に支配されたニセ霊能者であっても簡単にできるということを知っておくべきです。低級霊はわざと部分的に本当のことを言って地上の人間を信用させたり、また逆に不安に陥れたり、混乱させてからかったり、イタズラをしようとしたりするのはです。

②態度・様子・雰囲気から

- ・周りの人々を威圧するような言い方をしたり、煙に巻くような言い方をする。
- ・態度が尊大・傲慢であり、謙虚さからほど遠い。また雰囲気が高圧的で、一方的に周りの人々に命令調で話をする。
- ・自分自身の背後霊が誰々であるとか、自分の前世は誰々で、何をしていたなどと自慢する。（その大半は作り話であるが）
- ・今まで自分がしてきた修行を自慢する。（ex.荒行・断食行）それによって、さも自分の霊性が高いかのように誇示しようとする。
- ・自分の答えに対して質問をされると怒りだす。「自分の言うことを無条件に信じよ」という態度を取る。
- ・自分の感情をコントロールできず、すぐに怒ったり、絶えずイライラして落ち着かない。
- ・言うことがコロコロと変わって、先程（以前）の話と全く矛盾したことを平気で言う。

ここに挙げたような態度・様子・雰囲気が見られる霊能者は、完全に低級霊に翻弄されていると言ってよいでしょう。そうした者には初めから近づかないようにすべきです。仰々しいお祈りをしたり、霊にお伺いを立てるなどと称して、気違いじみた読経をしたりするような霊能者も同様です。また権威付

けのために特別な服装をしたり、祈祷室に多くの崇拜物・仏像・掛け軸などを並べているような霊能者の大半も、低級霊に翻弄されていると思って間違いありません。

目を見張らせるような現象ばかり見せて“珍しがり屋”をよろこばせている霊媒は、知的にも道徳的にも低級な霊のおもちゃにされています——名前は何とでも名乗れるし、見せようと思えばどんな霊の姿でも見せられます。そうやって人間を騙してはよろこんでいるのです。

〈続霊訓・148〉

一般に予言者と称して災害や不幸を安直に予言している人間は、イカサマ師でありハッタリ屋だと思って間違いありません。

〈現象編・267〉

見栄が強く、能力も知識もないのに、あたかもあるように見せかける——それが他人のものをのぞき見る悪趣味を生むのです。この種の人間には（邪霊集団の手先にされる）危険がつきまといまいます。

〈続霊訓・148〉

根本的に邪悪性の強い人間には邪霊がついていきますから、そのアドバイスも決して感心したものではありません。

〈現象編・271〉



③日頃の生活態度や、これまでの生活態度から

その人間の語る内容と態度から、本物の霊能者かニセ霊能者かのおおよその判断はつきます。しかし霊能者と自称する人間の中には、立派なことを語り（愛・神・霊界・永遠の生命など）、また一見人格者のように振る舞い、にこやかな態度をとる偽善的霊能者がいます。新新宗教の教祖にいるような狡猾なタイプの人間が霊能者にもいるということです。まさにペテン師とも言うべき霊能者がいるのです。

最近では霊的真理が普及し、身近な書物からも真理に触れることができるため、霊能者の在り方も以前と比べ巧妙になってきています。お世辞を連発したり、また逆に不安をかき立てるような言葉を巧みに用いて相手の心をつかんだり、霊的真理を部分的に語って相手を信用させようとしています。近頃では、こうしたタイプの霊能者が多くなりました。あまりにも見え透いたニセ者では、現代には通用しないからです。従来のような単純な脅し文句やデタラメを言っていては、相手を騙すことはできません。羊の皮をかぶった狼にならないければ、霊的知識が広まりつつある日本では、相手にされないことを彼らはよく知っているのです。

会った初めからニセ者と分かるような霊能者は、さして問題はありません。簡単に見分けがつくからです。しかし今述べたように巧妙にカムフラージュされたペテン師的霊能者・詐欺師的霊能者を見抜くことは、とても厄介です。この巧妙さゆえに、実際、多くの人々は見事に騙されているのです。親切そうに人生相談にのるポーズを取りながら、結局、多額の金をせしめている霊能者がよく見られますが、彼らは、まさにこのタイプのニセ霊能者なのです。

こうしたペテン師的霊能者・詐欺師的霊能者を見抜くのは一見難しいようですが、実は次のような点を押さえていけば、それほど難しいことはありません。

ニセ霊能者・ペテン師的霊能者の見極めは、相手の日常生活の様子やこれまでの生活態度を観察することで明らかにされます。相手の生活態度を長い時間にわたって見ることです。長期間にわたっての行

動こそ、その人間の“本性”を的確に表しています。その霊能者が何によって動かされているのか——金銭欲か、名誉欲か、純粋な奉仕性によるのかは、5年、10年といった単位で見ると容易に知ることができます。なかでも最も確実な判断基準となるのが「金銭」です。その霊能者がこれまでお金に対してどのような態度を取ってきたのかを、周りの人から聞くことによって、人間性の本質がはっきりと分かるのです。

一般に人間は大きく、「霊的なものを優先するタイプ」と「物質的なものを優先するタイプ」の二つに分けられます。もしある霊能者が霊能を利用して金儲けをしているとするならば、それは、その人間が霊（心）より物質的なものを優先していることを証明しています。たとえ、その霊能者が心の大切さや霊的世界のあることを語っていたとしても、その人間の本質は物質中心であることを示しています。地上の大半の人々は「肉主霊従」という物質中心・肉欲優先の状態にありますが、大部分の霊能者も同様の状態に置かれています。霊能という“神聖な道具”を物質的・肉的欲望追求のために利用していることにおいて、一般人より、さらに醜い状態に墮ちていると言えます。

最近では、道徳的な教訓や、時にはスピリチュアリズムの霊的真理を語る霊能者が増えてきました。しかし、そうした人物が霊能者としての歩みを通じて、（誠実に働く一般の人々と比べて）莫大なお金を儲けているとするなら、ニセ霊能者であると判断しても間違いありません。自分の物質的本性を巧みにカムフラージュするために、霊的真理を語るのなら、その罪は本当に重大と言わなければなりません。スピリチュアリズムの霊的真理を利用すること、それを自分の金儲けのために悪用することについては、霊界ではそれ相当の償いの道を逃れることはできません。死後は、何も知らない人々よりも、はるかに大きな償いの道を歩まざるを得なくなりま

愛の大切さを語り、真理を語りながら、結果的に普通一般の人々よりも桁外れの収入を得ているとするなら、わずか一回一時間そこそこの相談で、数万円（5万、10万円）もの金銭を要求しているとするなら、その霊能者は間違いなくニセ者と判断することができます。口先の言葉、一見謙虚に映る態度の裏に潜むニセ者の“本性”を見抜くことが必要なのです。

さらに本物の霊能者であるか、ニセ霊能者かの見分けは、その人が日常生活において自分自身を厳しく律しているかどうかという点において明らかにされます。なぜなら霊能者は普通の人以上に“低級霊”に影響されやすいため、絶えず自分の心を高める努力が必要とされるからです。しかし世間の大半の霊能者は自分に甘く、自己に厳しく臨んでいないようです。自己コントロールこそ霊能者にとっての「生命線」であることを知らずにいます。そして現実的に、道を踏み外しています。

なかには、人助けをしたいという純粋な動機から霊能者への道を歩み始めた人もいることでしょう。しかし自分を厳しく律することができないならば、いつの間にかその純粋さは失われ、物欲の虜となり、低級霊に翻弄されるようになってしまいます。やがて自分の意志に反して、低級霊に支配されたニセ霊能者に堕ちてしまうのです。

まともな霊能者、本当の「霊界の道具」と言える霊能者が地上においてほとんど見られないのは、こうした理由によります。“本能・肉欲”だけに翻弄されてしまっている醜い霊能者が大半と言っても過言ではありません。

繰り返しますが、ある霊能者が本物かどうか、ペテン師・詐欺師的霊能者でないかどうかの見極めは、「金銭」という物質欲の指標によって明確に判断されます。霊能力が金儲けの手段となっている場合には、その人間がいかに口先で立派なことを言っても“ニセ者”であることは明らかです。

日常生活が乱れ、飽食の限りを尽くしているといった本能剥き出しの霊能者、男女関係が乱れてSEX

に関するスキャンダルが絶えない霊能者、衣食住が極めて派手な霊能者も、すべて低級霊に利用されています。「水子供養が必要だ、先祖供養をしなければ幸せになれない、霊障がある、先祖の祟りだ、お守りグッズを買わなければ幸せになれない」などと煽って、その実、暴利をむさぼる霊能者は、低級霊にとっては格好の道具なのです。

本当の霊能者とは、ひたすら与えられた能力を人のために用いる人のことです。自分自身に厳しく、「霊界の道具」に徹して、自分を一切表に出さない人のことです。本物の霊能者ならば、もし目の前の人の災いが悪霊によって引き起こされているのなら、黙って取ってあげるはずで、本当にお守りグッズがその人を低級霊から守るとするのなら、それをタダであげるべきなのです。

すでに霊能者・霊媒者としての道を歩んでいる方々へ

このニューズレターの目的の一つに、すでに霊能者・霊媒者として歩んでいる方々に、自己チェックを促すことがあります。それによって霊能者としての正しい姿勢を自覚し、本物の「高級霊の道具」として再出発していただきたいということです。このニューズレターによってショックを受け、恥ずかしいと思われた霊能者の方々もいらっしやることでしょう。なかには強い自責の念にかられ、身の置き場もないように感じられた方々もいらっしやることでしょう。「このままではいけない、このままでは自分は必ず低級霊の罠にはまってしまおう、何とか今からでもやり直そう」と思えた人は幸いです。

先にも述べましたが、霊能者であるということは、それ相応の責任を負うことなのです。霊能という特別な能力を活用して、多くの人々を正しい世界へと導くことができる特権が与えられているのです。幅広く人々に奉仕する道が与えられているのです。それは霊的観点から見た時、本当に恵まれた立場を与えられたということなのです。そうした天の恵みを生かすためには、一般の人以上に、常に自分自身に厳しくあらねばなりません。霊的自己コントロールの努力が絶えず要求されます。霊能者は常に自分自

身を、この世の“欲”から超越したところに置かなければなりません。あなたがもし本当に霊界の道具に徹し切ろうと思うならば、自分の利益を後回しにして、常により多くの人々のために、自分の人生と生活を捧げなければなりません。あなたの心が純粹である限り、霊界の人達は決して、あなたを飢えさせるようなことはしないはずです。

率直に言って、これまで霊能者を名乗ってきた方々の大半は、高級霊の認める霊能者のレベルには至っていませんでした。しかし今その間違いに気づき、再度ゼロからの出発をなそうと決心するならば、今日に至るまでの歩みは、すべて必要な準備であったこととなります。あなたに純粹な再出発を促すための道であったこととなります。もし、あなたが今後、正しい霊能者としての歩みを始めることを決意するならば、これからの人生には、予想もつかない程の多くの“貢献の場・働きの場”が与えられるようになるはずです。

決まりきったことです。生活面で立派であればあるほど霊能も立派になります。自分の何かを犠牲にする覚悟のできていない人間にはロクな仕事はできません。

〈シルバーバーチ4・171〉

過去はもう過ぎ去ったのです。これまでに犯した間違いはお忘れになることです。皆さんは間違いを犯し、それから学ぶために地上にやって来たようなものです。過ぎ去ったことは忘れることです。大切なのは今現在です。今、人のためになることをするのです。

〈シルバーバーチ9・193〉

一方、このニューズレターを読んで、反発を持たれた方々もいらっしゃると思います。どのような考え方をするのも自由ですが、そうした態度は、高級霊からの“警告”を無視したことになります。私達は自分のなした間違いについては、結局いつかは自分自身で償わなければなりません。自分でその責任を負わなければなりません。人は騙せても決して騙すことのできない高級霊が、常に私達の心の中を見ていることを忘れてはなりません。神の慈悲を語り、真理を語れば、地上の人間を騙すことはできるでしょう。しかし決して、自分の心を欺きとおすことはできないのです。潜在意識の中にしまわれた“本心”は、霊界に行った時点において、すべて暴露されることとなります。地上での不正は死後、必ず後悔と苦しみという形で返ってくるのです。

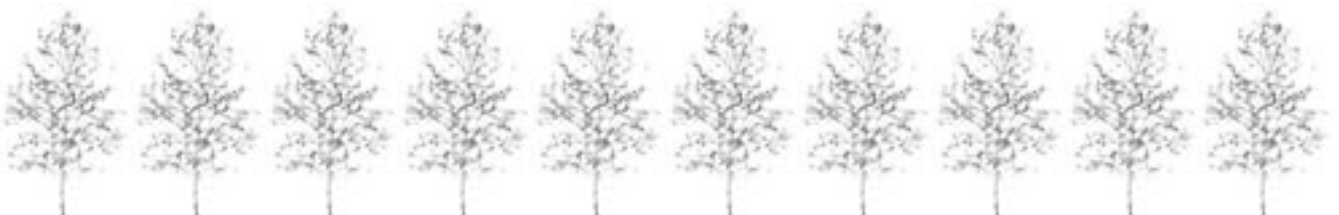
相応しくないと考える人が霊的能力に恵まれていることがよくありますが、それはその人にとって必要だからであって、それを使用することによって人間的に向上することを目的として授けられているのです。

〈現象編・201〉

—その霊能の使用を誤った時は、それ相当の報いがあるのでしょうか。

倍の報いを受けます。普通の人より多くの啓発の手段を授かっているからです。目が見えるのに道を間違える人は、目の見えない人が溝に落ちるのとは別の次元の裁きを受けます。

〈現象編・201〉



万が一にも不純なるもの、不正なるもの、臆病あるいは怠惰の要素を心に宿すようなことがあれば、あるいはもし神のみに帰すべき栄光を私せんとする傲慢無礼を働くようなことがあれば、さらには又、俗世への迎合、高慢、不純なる動機を抱くようなことがあれば、その時は神の道具として選ばれた使命によって恩恵を受けるどころか、絶好の成長の機会を無駄にした不徳によって、大いなる害をこうむることになります。

〈シルバーバーチ 11・40〉

地上は失敗から悟りを得る所です。間違いを犯してしまうのは仕方がないことです。問題は間違いに気がついた時、どのように自分を正していくか、ということなのです。金銭欲の渦巻く流れを断ち切るには、これまで作り上げてきた全てのものを、残らず捨て去るほどの勇気が必要とされます。「目をつぶって裸になる、ゼロからやり直す」——そうした大胆な決意が求められます。これまでの間違っただけの霊能者としての歩みを正すには、それ以外の方法はないのです。時には、思い切って霊能者という立場を止めることも必要となるかも知れません。霊能者という立場にしがみつく必要などどこにもありません。自分の魂が汚され最も大切な宝を捨てることになるよりは、霊能者の立場を捨てる方がずっと賢明な生き方なのです。

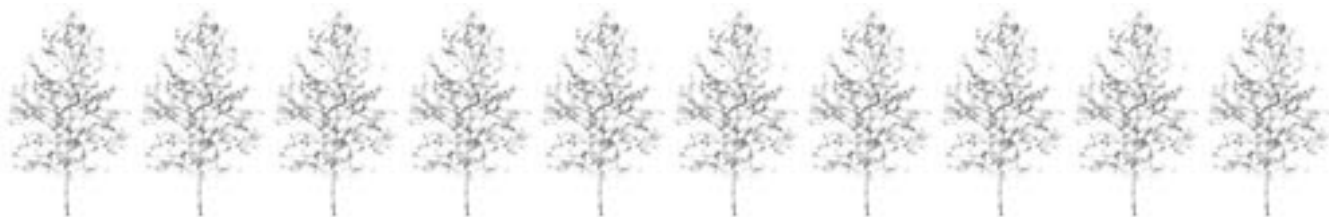
野心や我欲のために才能を悪用する者、あるいは自惚れ、独善、軽率さといった欠点によって、せっかくの霊能を台なしにしかねない者には、霊団から折あるごとに警告が発せられます。が、残念なことに、そうした霊能者ほど自分には関係ないと思うものです。

〈現象編・202〉

霊媒としての仕事は（使命をもつ霊団によって）選ばれた者以外は勝手に始めてはなりません。選ばれた者ならば霊団による守護があります。そうした霊媒にかぎって安全と言えます。それも、誠実にして真摯な心がまえで“神の仕事と栄光のために”行うとの認識があって、初めて言えることです。自己中心の考え、いかなる形にせよ“小我”にとらわれることから生じる邪心——見栄、自惚れ、野心等は霊性を汚す致命的な誘惑です。

〈続霊訓・149〉

もし、あなたが今後も霊能者としての立場で神のために働きたいと願うならば、次に述べることを、強く心に留めておかれるべきでしょう。まず何よりも、霊的真理をしっかりと学ぶということです。なぜなら、それがあなたを低級霊から守る最大の楯となるからです。絶えず霊的真理を読み、高級霊と触れ続けることが必要です。そして次に、その真理に自分自身をそわせる謙虚な態度が必要とされます。霊能者がもし「霊界の道具」以上の立場に立とうとすれば、必ず低級霊の餌食となってしまいます。そうした“利己心・自己顕示欲”に駆られた者は、低級霊と対等に戦うことはできません。高級霊のサイドに身を置きその守護を得られた時のみ、低級霊の接近をはねのけることができるのです。そうでない限り、いつの間にか低級霊の思うままに操られるようになってしまいます。また霊能力それ自体を、特別に価値のあるものと思ってはなりません。霊能力は人々のために用いてこそ価値を持ちます。自分の利益のためにそれを用いる時、その人間は大きな負債を負うことになります。自分の傲慢な思いに負けそうな時は、あなたは思い切って霊能者の立場を止めるべきです。金銭に対する誘惑に負けそうな時は、潔く霊能者の立場を捨てるべきなのです。



霊能者には、普通の人以上に厳しい自己克己の努力が必要とされます。霊能者は普通の人以上に低級霊の働きかけを受けるからです。低級霊の働きかけをはね返すのは、あなた自身の健全な心以外にはありません。正しい霊能者の修行とは、心の修行（高い心境を保つための霊主肉従の努力・自己コントロールの努力）のことなのです。一時的な荒行や、寒中の滝行など、低級霊との戦いの現場では何一つ力を発揮しません。そうした肉体行は、その場かぎりの緊張状態をつくれれば誰もができることであり、単にサイキックレベルの能力を引き出す以外の何物でもありません。

霊能者にとっての修行とは、自分の心を正して霊界の良き道具となることです。高級霊が働きかけることのできる純粋な道具になることを、常に目指すべきなのです。そうした“霊的努力”を日常的に継続することこそ本当の修行なのです。自分自身に厳しさを持ってない人は、今すぐ霊能者を止めるべきなのです。

人類の霊的向上のために役立つことのできる「真の霊能者」になるためには、スピリチュアリズムの真理を学び、それを全ての指針とすることが必要とされます。本物の霊能者になるための道は、それ以外にはありません。

大霊は霊媒自身の娯楽的趣味のために能力を授けるのではありません。ましてや低俗な野心を満足させるためではさらさらありません。あくまでも本人および同胞の霊性の発達を促進するために授けているのです。

〈現象編・178〉

一言にして言えば、霊的存在である人間が霊的影響力の流入口を開く——それが霊媒能力です。あくまで霊的な目的のために使用しなければなりません。営利目的のため、単なる好奇心の満足のため、あるいは低劣な、無意味な目的のために使用してはなりません。

〈続霊訓・123〉

生活態度が立派であれば、それだけ神の道具として立派ということです。ということは、生活態度が高度であればあるほど、内部に宿された神性がより多く発揮されていることになるのです。日常生活において発揮されている人間性そのものが霊能者としての程度を決めます。

〈シルバーバーチ4・171〉



低級霊の判別と対処方法 (現代審神者学)

どのようにして低級霊・イタズラ霊・からかい霊を見抜いたらよいか

私達に必要なとされる“通信霊”の霊的レベルの見分け

霊能者の見分けと同様、霊自体の善し悪しの判別はスピリチュアリズムにとって極めて重要な意味を持っています。高級霊界の教えは、「霊界通信」という手段によって地上人に届けられます。しかし、霊界から通信を送ってくるのは高級霊とは限りません。実際に、霊媒を通じて地上人に語りかけてくる霊の大半は、低級霊やイタズラ霊なのです。これが正当なスピリチュアリズムの評価を^{おと}貶しめ、良心的な人々をスピリチュアリズムから遠ざける一因となっています。低級霊からの通信は人々に混乱を与え、スピリチュアリズムの発展に大きなマイナスを引き起こしてきました。こうした現実に対処するため、スピリチュアリズムに導かれた私達は、霊を見分ける判断力を持たなければならないのです。

霊のレベルの見極めは、交霊会（霊媒現象）などで必要とされるばかりでなく、霊界通信やチャネリングの書物を読む際にも必要となります。どの程度の霊が語っているのか、どの程度の霊が通信を送ってきているのかを、常に判断しなければなりません。高級霊と低級霊を的確に見分け、低級霊を私達の周りから排除していかなければなりません。低級霊を見抜き、それを取り除くことは、古来より「審神者（さにわ）の役目」とされてきました。今私達は、現代の審神者としての能力を身につけることが要求されているのです。

霊との交わりに関する大原則

初めに、霊との交信（霊媒現象・チャネリング）についての原則を確認することにしましょう。以下に述べる①～⑨の内容は、“霊媒現象”に係わる人々

にとって、必ず知っておかなければならない基本的な知識です。これは霊との交わりに関する“大原則”であり、審神者として低級霊をコントロールするための必須知識となります。

①私達は常に、未熟な霊・低級な霊・凶悪な霊に取り囲まれている

未熟で低級な霊達は、人々が多く集まる場所——盛り場・酒場・ギャンブル場・劇場・映画館・霊場・お参り場所などに、大挙して押し寄せています。こうした霊達は、死後も十分な自覚を得ることができずに、地上近くをウロついています。地上的な肉欲や物質欲を引きずったまま生活し、自分の欲望で自分自身を地上に縛り付け、離れられない状況（自縛的な状態）にあります。そうした霊達が、絶えず私達に働きかけるチャンスを狙っているのです。

②交霊会（霊媒現象）を通じて現れる霊の大半は低級霊である

交霊会や霊媒現象を通じて現れる90パーセント以上の霊は、地上近くにいる未熟霊・低級霊・凶悪霊です。私達がふだん出会うことになる霊の大半は“低級霊”ということになります。

③高級霊による交霊会は、実際にはほとんどあり得ない

霊媒者・霊能者の多くは、自分の“通信霊”がさも霊格の高い霊、高級霊であるかのように宣伝しますが、それは事実ではありません。高級霊が通信を送ってくるというようなことは、まさに特別な出来事であり、極めて異例のケースなのです。高級霊からの通信は、長い準備期間をへて、あらゆる好条件が確立された時に、初めて可能となるものです。強

力な高級霊団の擁護と協力態勢のもとで、低級霊の介入を排除し、すべての厳しい条件をクリアした時、「純粋な霊訓」が地上にもたらされるのです。

それは人類全体の救済というスピリチュアリズムの計画の一環としてのみ実現する、ごく稀なケースなのです。スピリチュアリズムと無関係なところで、そうした高級霊からの通信が降ろされることは絶対にありません。スピリチュアリズムの「霊的真理」がすでに普及し始めている現在の日本においては、もはや、シルバーパーチのような超高級霊による交霊会は存在しません。

④一人の霊媒に複数の霊が出る場合は、低級霊であることが多い

普通、一人の霊媒は相談者の要望に応じて、それぞれの霊を呼び、これを自分に乗り移らせて話をします。したがってその都度、異なる霊に身体を支配されることとなります。これは一人の霊媒が、多くの霊達に、自分の身体を“道具”として使わせているということです。これが一般的な霊媒の実態ですが、そうした形での霊との交信は、極めて低い次元で行われています。

腕の立つベテラン職人は自分専用の道具を持ち、それを自分の身体の一部となる程までに使いこなします。道具を自分の生命のように大切に、手入れを怠りません。当然、その道具を他人に貸すというようなことはありません。ところが素人職人になると、作中に道具を他人から借りたり、レンタルして一時的に間に合わせるようなことをします。そうした素人職人によって優れた仕事がなされることはありません。

これと同様のことが、霊媒と通信霊の関係においても言えます。霊媒は通信霊にとってはまさに“道具”です。霊界から純粋な通信を送るについては、霊媒を通じて自分の意志を100パーセント表現できる程までに使いこなすことが必要となります。そのため高級霊の霊界通信では、長い期間をかけて準備がなされるのです。何十年もかけて、霊媒と通信霊のオーラの融合・調和レベルが深められます。そのようなケースでは、当然、使用する道具は一人に

限られます。すなわち自分の“専属霊媒”を持つということです。

もしある霊媒が、自分はいろいろな霊を呼び出せる、どんな霊でも呼んでみせると言うとしたなら、それは、その霊媒が“低級霊”だけしか呼べないことを、みずから証明していることに他なりません。多くの霊に自分の身体を使わせるような霊媒を通じて、高級霊が現れることはありません。常に複数の霊に自分を明け渡しているような低俗な霊媒を、高級霊が使用することはありません。そうした霊媒を通じて出現するのは低級霊に限られます。

⑤低俗な霊媒を通じて、高級霊が現れることはあり得ない

程度の悪い霊媒を、高級霊が使うことは決してありません。したがって霊媒の人間性を見れば、“通信霊”のおおよそのレベルの判断がつかます。低俗な霊媒には低級霊しか出ないというのが鉄則なのです。金儲けに走る霊媒、利己心・名誉心にとらわれた霊媒に、高級霊が現れることはあり得ません。交霊会・霊界通信・チャネリングが金儲けの手段となってしまうような場合、高級霊が関与することはありません。低級霊の格好の餌食になっています。

⑥スピリチュアリズムの霊的真理は、選りすぐりの高級霊界通信によってもたらされた

スピリチュアリズムにおいて明らかにされた「霊的真理」は、高級霊からの通信の中でも、さらに選り抜かれた特別なものです。今私達がそれを手にしているということは、奇跡とも言うべき超高級霊の交霊会に参加して、直接、その霊から話を聞いていることと同じなのです。人類史上における最高レベルの交霊会に参加させてもらうという、特権・恩恵にあずかったということなのです。

スピリチュアリズムにおける“三大霊訓”は、まさにそうした世界最高レベルの交霊会においてもたらされた人類の宝なのです。私達は、人類全体の救済のために降ろされた高級霊界からの通信を、真っ先に手にするという幸運に浴しているのです。

⑦スピリチュアリズムの靈的真理を手にしたなら、もう交霊会は必要ない

スピリチュアリズムの「靈的真理」を知った私達は、当然のことながら、もう交霊会に参加する必要はありません。最高次元の真理を知りながら、わざわざ程度の低い交霊会に出ることは、これまでの靈界の導きに対する裏切り行為以外の何物でもありません。交霊会における靈との交流は、いまだ死後の世界や靈魂の存在を信じられない人にとってのみ、意味を持つことなのです。

⑧守護靈といえども、自ら低級靈を引き寄せざる者を守ることはできない

どんな人間にも必ず“守護靈”は付いていますが、地上人が自ら低級靈を引き寄せるときには、手出しをすることはできません。その人間を案じながらも、守ることはできなくなります。そうしたケースでは、結局、地上人は低級靈のなすがままに放って置かれることとなります。

⑨低級靈は、地上人の心の内容に応じて引き寄せられる

私達地上人は常に“靈”の影響を受けており、それぞれの心の内容に応じた靈が引き寄せられています。地上人が低俗な欲望に駆られる時には、俗悪な靈・低級靈はそのチャンスを見逃さず働きかけます。低級靈に支配されたり取り憑かれるということは、その人自身に問題があることを示しています。

以上の①～⑨が、靈との交流に関する基本的な知識・原則となります。

低級靈の手口・地上人に働きかける動機

審神者の役目は、低級靈を判別し、排除することです。そのためには、敵である低級靈の手の内を知っておく必要があります。低級靈の実情を知っておくことは、効果的な戦いをするために不可欠な条件となります。低級靈の暗躍ぶりについては、モーゼスの『靈訓』や『靈媒の書』（『スピリチュアリズムの真髓・現象編』当サークル出版）に詳しく書か

れています。

まず低級靈は、どのような動機から地上人に働きかけるのか、ということを知っておかなければなりません。低級靈が地上人に働きかける動機として圧倒的に多いのが、単なる悪ふざけです。地上の人間を煙に巻いて面白がったり、地上人をからかって楽しもうとするのです。そして地上人が驚くような心霊現象を引き起こし、仰々しい偽りの名^{かた}を騙って出現し、尊大な態度で地上人に命令します。また、わざと間違った情報を与えたり、地上人の心の内を読み取って、適当に答えて喜ばせます。低級靈であっても、ある程度までは地上人の心の中を知ることができるのです。また地上の靈視能力を持っている者に対して、すでに死んでいる肉親の姿を装って見せつけることもあります。靈界では、低級靈といえども、短期間ならば自分の姿を思いどおりに変化させることができるのです。また地上人と縁故の靈を真似て、感激的な再会の場面をわざわざ作り出すようなことを企む靈もいます。

低級靈は、その時々のおもしろさだけを求めて、地上人の低俗な要求に応じます。地上人が世俗的なことを望めば、いつでもどのようなことでも、ふざけ半分、イタズラ半分にやっつけてのけます。そうして人を騙し有頂天にさせ、その後、当人が当惑・困惑する様子を見てほくそ笑むのです。初めはいかにも人間が喜びそうなことを言い、願いが実現するかなのような期待をもたせ、嬉しがらせます。そして奈落の底に突き落とし、その者が絶望し、苦しみ悩む姿を眺めて楽しもうとするのです。これが多くの低級靈の実態なのです。

したがって、もし皆さんが靈能者の所に行って物質的な願い事を申し出るとするならば、こうした低級靈^{わな}の罠の中に、わざわざ入っていくこととなります。



また憎しみを抱きながら他界した低級霊が、霊界から復讐しようとして地上に働きかける場合もあります。地上時代に辛酸をなめ尽くし、心が歪んでしまった霊が、子孫が幸せに暮らしているのを妬み、苦痛を与えようとすることもあります。先祖が子孫を憎み災いをもたらすようなことをするはずがないと信じたいところですが、そうした馬鹿げたことが現実にあるのです。また善なるものに対する憎しみから、誠実・真面目に生きていた地上人を困らせようとする低級霊もいます。気の弱そうな真面目な人間をただだからって、いじめたいと思う霊もいます。

死後も軽率なプライドを持ち続け、尊大な態度を装い、周りの人々から崇拜されようとしたり、自分の考えだけが最高であるかのように思い込み、それを何とか地上に知らせようとする霊もいます。彼らは霊界に入ってから依然として、地上での学問・研究を続けています。彼らは多くの知識を持ってはいても、“霊性”においては未熟なままなのです。また死後、地上的な欲望（肉欲・物質欲）に引きずられ、相変わらずそれを求め続け、地上の同じような人間に取り憑いている霊もいます。さらに地上での狂信的信仰・間違った信仰を持ち続け、それを地上に伝えようとする霊もいます。

霊媒を通じて地上人に語りかけてくる霊の大半（90パーセント以上）は、こうした地上近くにいる“未熟霊・低級霊・凶悪霊”です。地上の悪人にいろいろなタイプがあるのと同様、低級霊にもさまざまなタイプがあり、そうした霊達が、常に私達の心の隙を窺っているのです。



要注意！ 狡猾なペテン師的低級霊

このように低級霊にはさまざまなタイプがありますが、その中で最も厄介なのが、巧妙にカムフラージュして、高級霊になりすまして出てくる霊です。地上には、羊の皮をかぶった狼のようなペテン師的霊能者がいることを述べましたが、霊界にもそれと同じようなペテン師的低級霊がいるのです。

尊大・傲慢な話し方をする霊や、霊的真理から外れたデタラメを平気で語る霊が、低級霊であることは容易に判断がつきます。また「自分は大天使である」とか、「創造神である」などと言って出てくるような場合も、明らかに低級霊だと分かります。あるいは「自分を無条件に信じよ、崇拜せよ」などと言ってくるような霊や、地上人の喜びそうなことを次々と並べ立て、世俗的な質問に安易に答えるような霊も見分けがつきます。さらに見え透いた嘘や未来予知をするような霊も、それと分かります。こうした“単純な低級霊”を見抜くことは、霊的真理を学んだ者にとっては、それほど難しいことではありません。

問題はこうした単純な低級霊ではなく、高級霊や善霊を装った巧妙な“知的低級霊”です。一般的には、霊のレベルは、その霊が語る内容によって知ることができると言われていています。話の内容こそ、その霊の内面性を反映するものと思われています。しかし、そうした常識をそのまま鵜呑みにすると、大きな落とし穴に落ちることになります。なぜなら現実には多くの低級霊が、高級霊さながらに「霊的真理」を語ることもあるからです。彼らは、神の愛・利他愛・永遠の生命といった真理を上手に織り混ぜて、地上人を信用させようとしています。

もちろん相手が低級霊であっても、その話の中の正しい部分だけを受け入れるならばマイナスにはなりません。しかし大半の人間にとって、霊の話のどこが正しくて、どこが間違っているかを判断することは、容易なことではありません。低級霊は、霊的真理と偽りを意図的に混ぜ合わせ、巧妙に地上人を真理の道から遠ざけようとしています。一部の正しい真理を示すことによって地上人に信頼感を植え付け、

最終的に間違っただけを信じさせようとする。

知的な地上人を騙す最も効果的な方法は、部分的に真理を示すことです。これは現代の新興宗教が、教祖のカリスマ確立のために利用している手段と同じです。つまり霊的真理を“悪用”して、人々を信用させるといことです。その結果、日常における正しい生き方よりも、教祖や教団の方が重要なものになってしまいます。真理は、ペテン師にとっては絶好のカムフラージュの道具であり、洗脳の手段となるのです。それと同様なことを、低級霊も意図的に行ないます。

こうしたペテン師的低級霊を見抜けなかったことが、これまでのスピリチュアリズムの発展に大きな障害となってきました。審神者としての本当の力量とは、このような狡猾な霊を的確に見抜くところにあります。真理を語り、愛を説き、謙虚そのものに振る舞う低級霊を、いかに見破るかということです。一見、謙虚そのものの雰囲気装って意図的にニセの情報を送ってくる“霊の正体”を、確実に判別しなければなりません。霊的知識を知る地上人が多くなるにつれ、単純な霊界通信は姿を消し、見分けの難しい通信が増えてきています。

大半の地上人にとって、相手の霊のオーラを見ることはできません。また例えオーラを見ることができたとしても、低級霊は一時的に自分のオーラの色を変えたり、さらにはいつか高級霊としての姿をつくって霊能者・霊媒者に見せることもできます。

このような状況の中であって、私達は低級霊をしっかりと見抜いていかなければなりません。ではこの見えない“敵”を見抜く具体的な方法は、果たしてあるのでしょうか。



ペテン師的低級霊を見抜く“ベストの方法”

低級霊かどうかの判別は、霊の語る内容が「霊的真理」に一致しているかどうかを厳密にチェックすることでなされます。ペテン師的低級霊は、常に真理と嘘を織り混ぜます。私達はそうした霊の話のどこが霊的真理と一致し、どこが食い違っているのかを、瞬時に判断しなければなりません。それができなければ、相手のペースに乗せられてしまいます。そして真理と一致しない点を見いだしたら、すかさず指摘します——「それは霊的真理とは違います。嘘を言うのはやめなさい」と言えば、低級霊は必ずたじろぎます。何とか言い逃れしようとしたり、急いでその場を離れようとする。

相手の霊が、これまでスピリチュアリズムによって明かされた真理以外のことを語った場合、そのほとんどが作り話であると判断して間違いありません。また前世の身元、未来の予知、古代大陸文明、UFO、宇宙人、原罪、サタンなどについて述べるようなことがあった場合にも、低級霊であると考えべきです。スピリチュアリズムの霊的真理から明らかにズレたものに対しては、まず疑ってかからなければなりません。

低級霊は、地上人が今まで耳にしたこともないようなことを言って驚かせ、それによって自分を信用させようとする。あるいは動揺を与えて優位に立ちとうとする。そうした低級霊の狙いどおりに地上人が反応するなら、低級霊にとっては第一段階の目的を果たしたことになる。なぜなら、いったん心をつかんだ地上人を“真理の道”から切り離すのは、いとも簡単なことだからです。心さえつかめば、あとは何を言っても全て鵜呑みにするようになるからです。

中途半端に霊的真理をかじっていたり、霊的現象に過剰な関心を寄せる人々は、低級霊にとっては絶好の餌食なのです。ニューエイジや精神世界ブームは、まさに、こうしたペテン師的低級霊の“跳梁・暗躍”する格好の場を提供しています。

それは、スピリチュアリズムの世界においても同様です。残念なことですが、スピリチュアリストを

自称する人達、さらにはスピリチュアリズムのリーダー的立場にある人達が、ペテン師的低級霊に翻弄されている姿をたびたび目にします。

先号のニューズレターでは“魂の成長”を基準にして、「不可欠な知識」と「どちらでもよい知識」の区別をしました。私達にとって本当に必要なものは、魂の成長に係わる知識以外にはありません。よく、「どちらでもよい知識」ばかりの霊界通信を目にしますが、それは、その“ソース”が低級霊・未熟霊であるからです。たとえ通信の中に、部分的に霊的真理（ex. 神の愛・霊界・カルマ・利他愛）が含まれていたとしても、どちらでもよい知識や明らかに間違った知識がある場合は、まず通信霊の素性を疑ってかからなければなりません。それなのにもし地上人が、「こんな素晴らしい深い真理を述べているのだから、他の部分もおそらく本当に違いない」などと考えるならば、低級霊の術中にまんまとはめられたこととなります。

シルバーバーチのような高級霊は、“理性”を用いて通信の中身を吟味することの大切さを強調しています。霊からの通信を無批判に信じ込むことの弊害を訴え、自分（シルバーバーチ）に対してさえも、疑ってかかりなさいと言っています。

私達は、霊界通信の内容が地上人の「魂の成長」に的をしばったものになっているかどうかをチェックしなければなりません。魂の成長を促すための、内省的な歩み、自分に厳しい生き方を勧めているかどうかを見極めなければなりません。たとえ神とか利他愛といった素晴らしい言葉が並べてあったとしても、内省的努力に大きなウエイトが置かれていない通信は、低級霊からのものと考えても間違いありません。

* 霊媒の潜在意識の混入

現代科学の知識や難しい哲学用語を駆使する通信、最先端の心理学の内容を盛り込んだ通信が、最近とみに多くなっています。特にチャネリングにはその傾向が強く見られます。そして、こうした一見、垢抜けして現代人にマッチした知識や教訓がチャネリングの流行を生み出

しました。

しかし重大な結論を言いますと、そうしたチャネリングの多くは、霊界の霊によってもたらされたものではなく、霊媒（チャネラー）の“潜在意識”から引き出された知識なのです。チャネラーの潜在意識の中に存在する考えが、トランス状況下で外部に吐き出されたものなのです。従ってそれは、純粋な霊界通信とは言えません。単なる地上人の考えに過ぎないということになります。チャネリングでは判で押したように、最新の哲学や心理学用語が登場しますが、それは全てこうした理由によるものなのです。

一方、ヨーロッパを中心として発展してきたスピリチュアリズムにおいては、科学者がこの潜在意識の問題に厳しくメスを入れた経緯があります。そのために霊界通信に対して、厳しいチェックがなされるようになっていきます。アメリカでも、今後はチャネリングに対する厳格なチェックが徐々に進められていくものと思われます。それによって、これまでのようなチャネラー自身の知識と霊からの通信を混同するといった愚を犯すこともなくなっていくでしょう。ベストセラーとなったチャネリングには、一様に潜在意識の関与が色濃く見られます。最新の科学知識を語ることが、高級霊からの通信であることの証明にはなりません。

霊媒者の人格も、通信霊のレベルを測る目安となる

霊媒者の人格を見れば、おおよそどの程度の霊が通信を送ってきているかが明らかにされます。高級霊が低俗な霊媒を通して語ることはありません。霊媒が謙虚で無私無欲な場合には、たとえ知識が乏しくとも、高級霊の道具として用いられることもあります。霊媒者の生活態度・心身の健全さ・常識性は、通信霊の程度を推し量る一つの目安となります。



低級霊に対する対処・コントロール方法

低級霊は地上人に対して、隙あらばいつでも働きかけようとしています。こうした低級霊に対する最大の防御策とは、霊的コントロール（霊主肉従の努力）によって心を高めること以外にありません。私達が平静さを失い感情的になったり、あるいは本能・物欲に流されたその瞬間から、低級霊は働きかけを始めます。常日頃から世俗的なものに心が支配されないように注意しなければなりません。

魂の成長に意識を向けている限り、守護霊・背後霊は私達を低級霊から守ることができます。守護霊と一体化しているならば、私達の存在それ自体が低級霊にとっての脅威となるのです。低級霊は近づくことさえできなくなります。このように心を高める内省的努力、自分自身に厳しくする姿勢こそが、見えない敵（低級霊）に対する最大の武器となるのです。

さて皆さんは今後、霊媒体質者を通じて突然現れてくる“霊”と居合わせるというような事態に遭遇するかも知れません。また交霊会の現場に立ち合うようなことになるかも知れません。すでに述べましたが、請われもしないのに一方的に出てくる霊は、そのほとんどが低級霊や未熟霊、自縛霊の類です。そうした霊に対しては、まず身元をはっきりと確認することが必要です。相手の名前、いつ、どこに住んでいたのか、どんな仕事をしていたのか、家族はどうであったのか、どうして死んだのか、何のために出てきたのかを問いかけます。（*そうは言っても実際には、自分の名前すら忘れていた霊が多いのですが）

また、相手（霊）が死んだ時の状態が再現されることもあります（*例えば心臓病で死んだ霊が出てくる場合、霊媒は胸を抱えて痛みを訴えることがあります。）

相手の霊が素直に話を聞くようであれば、霊的未熟さのために“自縛状態”にあるその霊を救ってあげることができます。しかし、それを自分一人の力でしようと思っただけではなりません。心霊治療と同様、霊界の人々の力を借りることが必要です。自分を“霊の道具”として使っていただく、光の通過体として使っていただくことをイメージし、心を落ち着かせ

ます。それから守護霊に向けて祈ります。

「この哀れな霊に自覚をもたらし、救ってあげてください。自分を通じて流れる光によって、霊的な目覚めをお与えください」——それから憑依されている人（あるいは霊媒）の体の一部に手を触れ、心の中で相手の霊に向かって語りかけます。皆さんが語る言葉は、その霊に直接伝わっていきます。そして、それに対する答えが霊媒の口を通して返ってくることもあります。

「今あなたのすぐ後ろに光り輝く方がいらっしやいますが、見えますか」——もし見えないと言う時には、「今から私の体を通じて光を流します。すると徐々にその姿が見えるようになります」と言って、心の中で光を流してください。相手の霊は徐々に背後霊の姿が見えるようになるはずですが。時には、「まぶしすぎて目が開けられない」と訴えてくる場合もあります。そうした時は同じようにして、もう一度光を送ってあげてください。そうすれば、すぐにその光に耐えられるようになります。そばにいる指導霊達が見えるようになったら、「今後は、あの方達の指導を受けて、成長の道を歩みなさい」と教えてあげてください。おそらく、急に自由な状態に置かれるようになるでしょう。そして感謝の言葉とともに、その場を離れていくようになるはずですが。

これは、低級霊に対する救済方法の一例です。

一方、穏やかな霊とは対照的に、攻撃的で悪意に満ちた低級霊を相手にするようなことになるかも知れません。そうした霊に対しては、皆さんの“気迫”が大きな決め手となります。地上における議論と同じです。まず相手の名前や身元を厳しく問い質すことから始まります。身元に対しては大半の霊がいい加減なことを言うので、それを明らかにする証拠を示すように追求します。次に、何のために出てきたのかを詰問します。それに対しても、必ずいい加減に答えるはずですが。それを見逃さず、質問攻勢をかけていきます。霊的真理と違っている点を指摘し、厳しく迫ります。そうすれば、ほとんどの霊はたじろぎ逃げ腰になります。さらに、「嘘を言うのはやめなさい」と詰め寄ります。このように、皆さん方が

威厳を持って臨めば、大半の霊はその場から逃げ去ることになります。

それでもなお、その場に居座り続けるような相手に対しては、「今から高級霊を呼びますが、覚悟はいいですか」と厳しく出ます。皆さんが心の中で高級霊に来て欲しいと願えば、周りにいる指導の霊達がすぐその場に来て取り押さえ、排除することになります。「この場を去って向こうに行きなさい」と威厳を持って言えば、大半の霊はその場から立ち去ることになるはずです。気迫を持って臨もうとする皆さんの心の内を先に読みとって、正体を暴かれる前に、素早く逃げの態勢を取ることになるかも知れません。

もっとも、こうして低級霊を取り除いたとしても、憑依された本人自身の心に変化しない限り、再び同じ霊や他の霊に憑依されるようになります。

“除霊”はどこまでも一時的な処置に過ぎないということなのです。

低級霊・凶悪霊に完全に憑依され、自分自身を失い精神錯乱状態になっている人に対しては、こうした除霊の方法は取るべきではありません。病院に入院させるといった物質次元での強力な対処方法が、どうしても必要となります。

*ここで述べたような除霊の方法は、あくまでも偶然に憑依の現場に出くわした際の対処方法であって、皆さんに対して、わざわざ交霊会を開いて（霊媒を通じて）霊を呼びだし、その救済をするよう勧めるものではありません。その点を勘違いしないようにしてください。確かに、低級霊に自覚を持たせて救ってあげることは愛の行為ではありますが、それを自発的・計画的に進めるについては、地上人に特別な使命があり、霊界の全面的な守護の態勢があって、初めて可能になることなのです。

また、そうした除霊によって救われるケースは、霊界における救済活動が効を奏し、救いの時期が到来した霊に限られているということを知っておかなければなりません。霊的目覚めの時期を迎えた霊が、霊界の指導霊・救済霊によって“救いの最終場所”として導かれてくるのです。こうした極めて複雑なプロセスがあって、はじめて未熟霊・低級霊の救済が可能となるのです。ウィッ

クランド博士のような「除霊治療」ならびに「低級霊の救済」は、そうした霊界の全面的なバックアップのもとに実現したことであって、同じことが皆さん方に、すぐできるというわけではありません。

最後に、アラン・カルデックの『霊媒の書』の一節を挙げておきます。

通信霊がいかなる霊格の持ち主であるかは、人間の人格を推し量る時と同じように、その言っていることによつて判断しなくてはなりません……霊格はその言葉に表れる——これは間違いのない尺度であつて、まず例外は有り得ません。

高級霊からのメッセージはただ内容が素晴らしいというだけではありません。その文体が、素朴でありながら威厳に満ちています。低級霊になると、やたら立派そうな派手な用語を用いながら、訴える力がこもっていません。

用心しなければならぬのは、知性です。ふんだんに知識をひけらかしているからといって高級霊と思つてはなりません。知性は必ずしも徳性ないし霊性の証明ではないのです。

繰り返しますが、霊的通信を受け取つた時は、内容的に見て理性と常識に反するものはないか、文章や言葉に品位があるか、偉ぶつたところや尊大な態度は見られないか、といった点を検証しないとイケません。そうした態度に出た時、もしも機嫌を損ねるようであつたら、それは低級霊・未熟霊・邪霊の類いと思つて差し支えありません。高級霊ないし善霊は絶対に機嫌を損ねないどころか、むしろそうした態度を歓迎するものなのです。何一つ恐れる必要がないからです。

〈現象編・223〉



皆様のご質問にお答えして

質問

最近、大人（特に親）による幼児・児童の虐待が問題になってきました。幼児の虐待死の事件が報道される度に、同じような幼い子供を持つ親として、いたたまれない思いに駆られます。スピリチュアリズムでは、この「幼児虐待」の問題をどのように考えたらよいのでしょうか。

答え

無邪気で無抵抗な幼い子供が、大人の虐待によって死に至ることは、本当に心の痛む出来事です。子供を虐待する大人は、動物にも劣る人間と言わなければなりません。しかし、こうした“悲劇”ともいうべき問題は、幼児虐待に限ってのことではありません。極度の飢餓に苦しむ人々、貧困ゆえに牛馬のように酷使される人々、戦争に巻き込まれ死の恐怖におびえ続ける人々、またかつての奴隷制度によって犠牲となった人々も、本質的には、この児童虐待と全く同じ悲劇の当事者なのです。これらは、地球上の最も悲惨な問題と言わなければなりません。無抵抗なまま虐待を受け死んでいくといった悲劇は、一刻も早く地上から消し去らなければなりません。そして同時に忘れてはならないのは、現在地球上で堂々として行われている“動物虐待”も、本質的には同じ問題であるということです。

こうした地獄にも匹敵する現実をなくしたいと思っているのは、私達地上人だけではありません。実は霊界の大半の霊達は、このような見るに堪えない現実を何百年以上にもわたって、ずっと見てきたのです。目の前に展開される悲惨な状況を眺め、心を痛めてきたのです。そして彼らは、そうした地上の悲惨さをなくすために、今日まで全力で地上に働きかけてきたのです。それが今、私達が関わっている「スピリチュアリズム」なのです。高級霊こそ、これまで最も地上の悲惨さに心を痛め、地上人の誰よりも、

それをなくすために努力してきたと言えるのです。

目を覆うばかりの地上の悲惨さは、本を正せば、すべて人間の“エゴと物質主義”に起因します。もちろん地上の悲劇は一部の非道な人々によって引き起こされているのですが、その原因を掘り下げてみれば、すべての人間に共通する“心の問題”に行き着くのです。地上の悲惨さは地上人の心の未熟さが反映したものであり、人災なのです。こうした人災によって引き起こされる悲劇をなくすには、何より人々の「心の変革・霊的変革」が必要とされます。スピリチュアリズムはそのために、霊界あげて進められている大プロジェクトなのです。

従って、私達がスピリチュアリズムの一員として霊的真理の普及に携わるとするならば、それは地上のあらゆる悲惨な問題を解決するための、最も根本的な救済活動に参加していることとなります。いかなるボランティアや政治活動よりも、偉大な奉仕活動に携わっていることになるのです。現在の地球は、まさに“地上地獄”とも言うべき世界となっています。そうした状況を、すぐさま変えることはできません。何百年という期間をかけて「霊的真理」を地上に広めることによって、徐々に変えていくしかないのです。

再度述べますが、地上の悲劇をなくすための最も効果的な方法は、地上人一人一人に霊的真理を伝えることなのです。私達はスピリチュアリズムに係わることによって、人類に対する最高の貢献をしています。霊界の人々と一緒に、地球全体の問題を根本から解決するための“大プロジェクト”に参加しているのです。幼児虐待などの悲惨な出来事に心が痛む時は、どうか、こうした事実を思い起こしてください。

そうは言っても、今現実^{あえ}に私達の目の前には、不当な苦しみに喘いでいる多くの人々がいます。そう

した状況に対して、どのように考えたらよいのでしょうか。

無駄死にを余儀なくされた人々は、本当に気の毒であるとしか言いようがありません。地上という魂を成長させるための世界に生まれながら、その道が一方的に閉ざされてしまうことは、まさに不公平な運命を背負ったと言わざるを得ません。

しかし、そうした見方と同時に、私達はこれらの問題を「靈的視点から見ると」ようにしなければなりません。非道な虐待を受けたり不当な苦しみを与えられ、地上人生を犠牲にした人々には、靈界においてはそれ相応の「埋め合わせの原理」が働くようになります。地上世界で受けた不当な苦しきは、靈界においてそれを埋め合わせるような“恩恵”が与えられ、プラス・マイナスゼロの状態になります。従って地上だけの人生を見れば大きなマイナス点だけが目につきますが、靈界まで見通した時には、公正さが保たれるようになっていきます。一方的に不公平な人生を歩まされるという人間はいないのです。地上における不当な扱いが、埋め合わされることなく過ぎ去っていくことはありません。地上では悲惨そのものと言える人生を歩んだとしても、こうした埋め合わせの法則が働いていることを忘れてはなりません。幼児虐待の犠牲となって死に至った子供達にも、この法則は当てはまります。

あなたが、そうしたことを実感できれば、かなり心の痛みは軽減されるでしょう。常に「靈的な視野」から物事を見ることが大切なのです。

さらに次のようなことも考え合わせる必要があります。すなわち悲惨な地上人生を歩むようになった人達の多くが、再生に先立って、あえて厳しい環境を選択しているということです。幼児虐待の被害者となった子供達も、その例外ではありません。しかし、虐待によって犠牲になることまで、予定されていたわけではありません。予定されていたのは、厳しい家庭環境や人間環境の中に立たされるようになる、ということです。その中で“死”にまで至ってしまったことは、その子供の霊にとっては、アクシデント以外の何物でもありません。本当に気の毒な

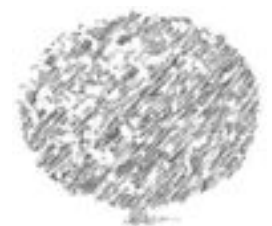
出来事です。

しかし、そうした不当な扱いから生じた損害（予定されていた寿命よりも地上人生を早く切り上げるようになったこと）については、その後の靈界での歩みにおいて必ず埋め合わせがなされていきます。靈界で特別な育児・教育を受ける環境が与えられ、多くの愛情が注がれるようになります。あるいは“カルマ”を消滅させるチャンスが集中して与えられるようになるかも知れません。

靈界からの働きかけによって、地上世界は問題の根本的な解決に向けて少しずつ進んでいます。そしてそれが反映して、地上人類の“靈性”も進化してきています。人間社会における差別（男女・人種・階級）や不公平は徐々に改善されてきました。そして今後、貧困・虐待・飢えなどの悲惨な出来事も、制度の改革や法律によって、ある程度まで歯止めがかけられていくようになるでしょう。また当然そうならなければなりません。

しかし法律などによって外部から歯止めをかけることができたとしても、人間の心が変わらない限り、本質的な問題解決にはなりません。なぜなら生命を奪わなくても“愛”がなければ、殺人に匹敵する痛手を相手に与えることになるからです。法律によって肉的殺人は防ぐことができても、“靈的殺人”を防ぐことはできません。結局、地上人類に靈的真理が行き渡り、各自の内面が変わることしか、根本的な解決方法はないということなのです。

地上人の大半が靈的な事実を知らず、靈的に無知のままに靈界に入っていくという現実こそ、地球上における「最大の悲劇」と言わなければなりません。



❖ スピリチュアリズム・ライブラリー ❖

スピリチュアリズム・サークル「心の道場」では、スピリチュアリズム精選シリーズとして、下記の本を自費出版しています。

◆スピリチュアリズム入門 (169頁)
—スピリチュアリズムが明かす—「心霊現象のメカニズム&すばらしい死後の世界」

◆続スピリチュアリズム入門 (256頁)
—高級霊訓が明かす—「霊的真理のエッセンス&霊的成長の道」

◆スピリチュアリズムの真髄「現象編」 (297頁)
『The Mediums' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳

◆スピリチュアリズムの真髄「思想編」 (357頁)
『The Spirits' Book』 アラン・カルデック編著／近藤千雄 訳

◆500に及ぶあの世からの現地報告 (437頁)
—エクトプラズムボックスを通じて明らかにされる死の直後の実生活—
『Life After Death』 ネヴィレ・ランダル著／小池 英 訳

◆マイヤースの通信—永遠の大道 (全訳) (271頁)
『The Road to Immortality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳

◆マイヤースの通信—個人的存在の彼方 (全訳) (304頁)
『Beyond Human Personality』 G・カミンズ著／近藤千雄 訳

◆霊訓 (完訳・上) 『The Spirit Teachings』 (225頁)
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳

◆霊訓 (完訳・下) 『The Spirit Teachings』 (260頁)
ステイントン・モーゼス著／近藤千雄 訳

〈今後の出版予定〉

◆シルバーバーチの霊訓 (仮題)
『Teachings of Silver Birch』 (全訳) A. W. オースティン編／近藤千雄 訳

〈現在絶版となっている書籍の復刻予定〉

◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『A Voice in the Wilderness』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Seed of Truth』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆シルバーバーチの霊訓 (仮題) 『The Spirit Speaks』
トニー・オーツセン編／近藤千雄 訳

◆ジャック・ウェバーの霊現象 『The Mediumship of Jack Webber』
ハリー・エドワーズ著／近藤千雄 訳

◆妖精物語 『The Loming of the Fairies』
A・コナン・ドイル著／近藤千雄 訳

明けましておめでとうございます。いよいよ西暦2000年という大きな節目の時を迎えました。しかし、それは地球上に限ったことで、霊界の人々にとっては何の意味もありません。

1848年こそが地球にとっての真のミレニアム新年です。ということで、今年も、昨年同様、霊界の人々とともに「霊的真理の普及」のために精一杯の努力をしていきたいと思っております。

ニュースレターを発行する度ごとに、全国各地の多くの方々からお便りをいただき、ありがとうございます。ニュースレターをお読みいただいている大勢の方々が、それを真理普及のために活用して下さっておられることを知り、本当にうれしく思っております。新しい年が皆様にとりまして、いっそうの“貢献”の年となり、より多くの“霊的実り”を手になされる年となりますよう、心よりお祈りいたします。

※このニュースレターは、一年間無料でお送りいたしておりますが、今後は必要ないと思われる方がいらっしゃいましたら、ご面倒でもご一報ください。葉書・ファックスなどで、ただ“不要”とのみ、お知らせくださればけっこうです。

継続をご希望の場合には連絡はおりません。これまで通りお送りいたします。（無料です）

なおニュースレターの発送については手違いのないように注意いたしておりますが、時期を過ぎてもお手元に届かない場合には、遠慮なくお知らせください。（現在のところ、1、4、7、10月の初旬に発行いたしております。）

